

あかつき

同窓会報

編集と発行 田原東部小学校同窓会 題字 白井 優(昭和15年卒)

田原東部小学校区(4月30日)現在

田原東部の人口		児童数
地区人口		
豊島	1,945	111
御殿	433	113
谷相	658	44
やぐ	175	7
ま台	800	52
合計	4,011	327

印刷所 なつめ総業(有)

「同級会」

同窓会長 鈴木克尚
(昭和三十二年卒)



盛夏の候、同窓会員の皆様には、益々お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。私たち東部小学校第十回卒業生は、昨年度古稀を迎えましたが、五十四名中、四十七名が健在で、五名の方が既に亡くなりになりました。また、二名の方とは連絡が取れない状態となっております。

このような中、五年前ぐらいから同級会が開かれるようになり、毎年のように一泊で実施されています。昨年などは、一年間も待てないという声が出て、二回も開かれました。今までに、伊良湖岬、三谷温泉、伊勢志摩、東京などで実施されてきました。集まる人数は、毎回十数人程度です。

私たちの学年は一学級だったので、六年間同じメンバー

でした。しかし、数十年ぶりの集まりの時は、初めのうち名前と顔がくっつかない人も何人かいました。それでも、小学校時代の話をしているうちにすぐにわかり合えました。

小学校時代の思い出話は、数々あります。春と秋には、農繁休暇ということで学校が休みになったこと、稲刈り前には稲を縛るスガイをなう競技会もありました。冬の寒風の中で、麦踏み作業もやりました。学校のトイレから農場まで下肥を二人で担いで運んだこともありました。また、学校には豚がいて、餌やりの当番がありました。その時には、近くの水路や水田にたくさんいたザリガニを獲ってハソリで煮て豚に食べさせました。この他にも、いろいろなことが話題にのぼり、毎回深夜まで語り合っています。

今回は、私の学年の同級会の様子を書かさせていただきました。同窓会員相互を結び、会報「あかつき」への皆様からのご投稿をお待ちしております。

「幸せの花」咲かせたい

田原東部小学校長 杉田哲利



先日、雨上がりの機を逃すまいと草取りをした時に、草の根の張り、広がり、改めて驚かされました。その時、ふと相田みつをさんの「花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根は見えねんだなあ」という作品を思い出しました。田原東部小の子どもたちにはしっかりとした「幸せの花」を咲かせるためにも、根っこをしっかりとさせなければと思います。

現在の子どもは昔の子どもと何が違うのでしょうか。日頃学校で子どもと接していると、子どもは昔も今も大きく変わっていないと感じます。しかし、社会や生活の変化の中で大きく変わった部分があります。それは「社会性の弱まり」と「自尊心の低下」

です。小さい頃の遊びを通してのかかわりや、友だちや大人から認められ、自信をもつ経験の欠如から生まれると言われている。不足したかわりを補うもの、それは「大人の意識」だと言います。「人との接し方」「他人には、してはいけないこと」を大人が意識して教えることが、今必要だと言われます。また、教えられることに馴染むのは思春期までだそうです。まさに小学校の内に育てる必要があるのです。

何を意識して教えるのか。それは「あいさつ」ができるようにすることが一番だと思います。「しなさい」ではなく「やってみせる」ことが一番効果があるようです。あいさつは、「おはよう」だけではありません。どんな時にどんなあいさつをするのか、意識して示したいものです。今まで以上に、保護者の方々、地域の方々と協力し、子どもたちにしっかりと根っこを張らせ、「幸せの花」を咲かせたいと考えています。

特集

小野田セメント

河辺立也

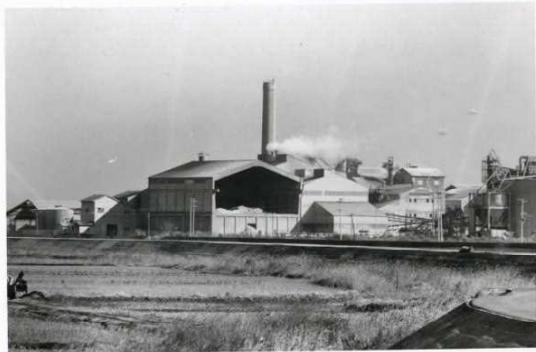
(昭和二十九年卒)

数年前、東部小から、校区のお宝を調べる「あかつき探検隊」という授業で、「小野田セメント窯跡」の見学案内の依頼を受けました。その時のことを思い出して書いてみます。

まず、何故この地にセメント工場ができたのか説明します。蔵王山のふもと、白谷の地で石灰石が豊富に産出されました。このことに着目した江戸時代の田原藩は石灰石を焼いて生石灰を製造していました。明治十五年に「旗本遠山金四郎」の孫、斉藤實堯が二ツ坂に「東洋組」を興し、日本で二番目にセメントの製造を創めました。

セメントは石灰石と粘土を八対二の割合で混ぜて焼いてつくります。原料の粘土が豊富に取れることと、海運ができるというところで豊島の北端、汐川に面した安原崎に徳利窯を設置して、セメント製

造が明治二十二年より始まりました。その時の名残、徳利窯の一部が残っています。上部が壊れ、基部だけになっていますが明治時代にセメントを焼いていた窯です。大正時代になると徳利窯はその効率の悪さから、回転窯に取って代わられました。徳利窯は一度火をつけると焼き上がるまでに七日かかりました。回転窯のように連続して焼くことはできず、焼く度にセメントをかき出しては材料の石灰石と石炭を入れる繰り返しです。徳利窯は三十七年間、セメントを焼きました。



昭和40年当時の工場（焼成工場）

昭和十八年「東洋組」は「小野田セメント」に合併され、昭和三十二年に工場の増設が行われました。愛知県下唯一のセメント工場としてこの地の需要をまかなくなりました。多くの人がこの工場で働き、関連する会社もでき、田原の経済を支えてきました。

白谷にある田原鉱山は石灰石の鉱量が少ないので大きい設備にすることはなく、効率の良い実験設備として製造を続けてきました。昭和四十五年、先進技術であるRSPキリンによる実験設備を作り、その技術を元にスケールアップしたRSPキリンが日本各地のみならず海外でも活躍しています。セメント業界が不況のあおりを受け、石灰石の鉱量が沢山あり、港の近くにある工場が生き残り、平成六年に田原でのセメント製造は終了しました。

その後は実験工場として、ゴミの焼却灰や下水の汚泥、産廃物を原料とする環境リサイクル型「エコセメント」の実証実験をし、「エコセメント」の実験工場として東京都



昭和40年当時のベルトコンベア(石灰石・粘土搬入)

多摩、千葉県市原の二カ所他に稼働しています。

工場は解体され更地となり、平成二十五年からは太陽光発電所となりました。社宅厚生施設グラウンドは「御殿山地区」として、百十戸あまりの住宅ができ、百余名の児童が通い、全校児童の三分の一程になっています。

「あかつき探検隊」で児童たちから「石灰石とは?」、「セメントとコンクリートの違いは?」という質問を受けました。逆に「ここにセメント工場があつたことを知っていますか?」と聞いてみましたが、「知っている子はいませんが、今では「徳利窯」だけが

当時の面影を残し、地名として当時のままの「御殿山」が残っているだけです。
※当時のことに興味をもっていただけならば、田原町巴江の旧授産所を改装した「セメント産業会館」にいつてみることをお勧めします。

同窓会第十八期

役員改選される

任期満了にともない、平成二十六年年度総会で、同窓会役員が改選されました。

〈会長〉 鈴木 克尚
〈副会長〉 白井 庸

〈書記〉 彦坂 文男
村上 洋子
彦坂 徹郎
中村まさよ

〈会計〉 大淵 宗男
伊与田啓美

〈監査〉 坂口 安司
安田 正勝

山田 幸司
彦坂 辰二

河邊 義典
北野とみ子

伊原 唯夫
白井 勝久

高藻 啓充
高橋 静雄

安田 文広

会員の声

「小学校時代」

中 神 浩 次
(昭和五十八年卒)

縁があり、平成二十五年に東部小学校の P T A 会長を務めさせていただきました。P T A 会長になって度々小学校に行く機会があり、校内を歩いてみると、小学校時代をいろいろと思い出し、時間が戻った気分でした。

運動場には東部小学校のシンボル「えのみの木」が今も悠々と子どもたちの成長を見守っています。「観察池」や「あかつき山」も当時のままです。多少の増改築はありますが、校舎や体育館、プールも当時のままです。逆に、あまりにも変わっていかなくて歴史すら感じ取れます。また、正面を入ってロータリーの松の下には「本気・根気・勇氣」の三気の碑があります。先生が春先に集合写真を写す場所です。この碑は、昭和二十六年卒業生一同より寄贈していただいたもので、私の父親も

その中の一人としていました。昭和五十一年のことで、この三気の碑の前で私たちも写真を撮ったことを今でもよく覚えています。先生が「東部小学校の子は、本気で、根気よく、勇氣をもって頑張ろう！」と、口を酸っぱくして言っていたことを思い出します。そんな小学校時代は、野球が好きで、よく公園や空き地で遊んでいました。夏には、カブトムシやクワガタを捕まえたり、ごまやの川(仁皇川)や小学校の裏の水路でザリガニやドジョウを捕まえたりしていました。時には、捕まえたザリガニを小学校の焼却炉でゆでて食べたことも、今となってはよい思い出です。秋にはアケビをよく採っては食べました。雪が積もって雪合戦をしたり、運動場が凍ってスケートもどきをしたりしたことも、珍しいことなので、よく覚えていています。また、授業中に外を見ると、空にごみやビニールなどが舞い上がっている、不思議に思っているということも小学校時代にはありました。



今思うと、小学生の頃は、いつも何をして遊ぶうか考えていた気がします。それは、今の子どもも全く同じだと思います。その時代、時代で子どもはいろいろ考え、行動しています。子どもは柔軟な考えは、大人にはない宝物です。いろいろな体験、失敗を繰り返して大人になっていってほしいと思います。

最後に、この「あかつき」の原稿を書いていて、一番思い出したことは、作文や読書感想文を書くのが大の苦手だったことです。そんな「小学校時代」のよき思い出は、今も心の中にたくさんあります。

新しい一歩

鈴 木 渉
(平成十九年卒)

『二十歳』という大きな境目を越えて、社会では大人として扱われるようになりました。成人式を終えると「大人としての責任感や自覚が芽生えた」という言葉を耳にします。しかし、以前の私にはよくわかりませんでした。大人になるために必要なものはいったい何なのだろうか、と。その時の私はまだ足を踏み出せずにいました。

昔のことを多くは覚えていませんが、私は小学生という身分を満喫していたように思います。運動場を走り回ったこと、図書館で本を読んだこと、みんなで遠足に行ったこと。楽しかった思い出が浮かんできます。悲しい思い出は、という不思議なことにはほとんど思い浮かびません。

『過去は美化される』といいますが、それは昔の思い出が今の自分にとっての感情の閾値を超えないだけだと思っ

ています。それでいて、何かに悩んだりした自分は居たわけ、その経験は確かに刻まれていると考えると非常に面白く感じます。

成人式後、クラスみんなは東部小学校に集まりました。広く思えた教室も机もすっかり印象が変わりました。クラスの仲間は当時の面影を残しつつも大人の顔になったと感じました。みんなの前で嬉しそうに話す先生はお元気で、そうで安心しました。

今の私を形作る基盤といえる小学生時代に、素敵な仲間、素晴らしい先生方と出会い六年間を過ごせたことは幸せなことだと思います。これから何が起こるかわかりませんが、そんな中でも大丈夫だと確信できるほど私の中で強く根付き力をくれる大きな存在になっていきます。

大きな境目を越えました。今はこう思います。支えてくれた方に感謝し、今度は支える側になるために努力する。これが大人になるということだろう。ようやく私は一歩を踏み出すことができました。

学校だより

【平成二十五年度トピックス】

◇子ども自転車

愛知県大会出場

七月二十五日、名古屋市港区のポートメッセなごやで「交通安全子ども自転車愛知県大会」が行われ、本校からは、五名の子どもが参加しました。大会は、会場に設けられた特設コースを使った実技と交通安全規則に関する筆記の得点によって競いました。

事前に、田原警察署より交通指導課の方が指導に来てくださり、自転車の操作についての確かな指導・助言をいただきました。そのおかげで、自転車技能を一層高めることができました。

結果は、参加21校23チーム中15位でした。子どもたちにとっては、貴重な体験になったと思います。



◇「夢の教室」

田原市では、五年生を対象に、「夢をはぐくむ小学生出会いと体験の道場『夢の教室』」が、二十五年度から実施されています。

この事業は、様々なアスリートを特別授業講師「夢先生」として迎え、実体験等に基づく授業を通して、フェアプレー精神や協力すること、夢をもつことの大切さ、失敗を乗り越えて夢や目標にむけて努力しようとする意識や態度を養うことを目的としています。

本校には、「夢先生」として田原市出身のフリークライマー尾川とも子さんが訪れました。尾川さんとゲームを楽しんだ後、「夢」をテーマとした話をうかがいました。毎年、新しい「夢先生」が、授業をしてくれる予定です。



【平成二十六年度トピックス】

◇元気になって

えのみの木

六月八日、田原東部小学校のシンボルツリーであり、卒業生・在校生の心のよりどころとなっている「えのみの木（エノキ）」の樹木医による治療が行われました。

南東側に枯れ枝があり、その伐採にあわせて殺菌剤などの塗布を行いました。樹木医さんによれば、「樹齢130年であり、樹勢も弱ってきている。本来ならば根元を踏み固めなようにしたいが、運動場であり難しい。様子を見てできることをしていきたい。」とのことでした。

学校としても、注意深く見守っていこうと思っております。



◇運動部、大活躍！

二十六年度の運動部は、各種の大会で素晴らしい成果を残し、田原東部小学校の歴史の一ページを飾ることができました。

真剣に練習に取り組み、「やればできる」という姿勢を示してくれました。



【主な成績】

- 市内水泳大会 六年 200 M R 男女優勝
- 市内陸上競技選手権大会 六年男子 400 M R 優勝
- 市内バスケットボール大会 市総体会場 男子優勝

◇新給食センター 始まる！

田原市内全小中学校で、新給食センターによる給食が始まりました。最新の設備を備え、安全・安心の給食づくりが行われています。

会報編集委員

- 編集委員長 白井 庸
- 編集副委員長 彦坂 文男
- 編集委員 村上 洋子
- 彦坂 徹郎 中村まさよ
- 河邊 義典 高藻 啓充
- 彦坂 辰二 安田 正勝
- 高橋 静雄

【お知らせ】

今回、年次代表の方にアンケートをした結果、会報の配付方法を、左記のように決まりました。
①閲覧版で、各家庭に配付します。
②他に配付を希望する個人・年次代表には、学校から配付します。

◇◇編◇集◇後◇記◇◇

同窓会報「あかつき」第17号をお届けします。ご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。下記 URL に、カラー版が掲載してあります。

同窓会事務局

〒 441-3417 愛知県田原市豊島町西屋敷 1-3
田原市立田原東部小学校
TEL <0531>22-0179 FAX<0531>22-5582
URL <http://www.city.tahara.aichi.jp/school/tobu-e/>
E-mail tobu-e@city.tahara.aichi.jp

